



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2007.10

No. 282

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



荒沢沼 カワウ・コロニーの今！

小荷田行男*

●はじめに

荒川東岸、桶川市と上尾市の境を流れる江川西岸に5つの小さな湖沼からなる荒沢沼がある。'90年、カワウ・コロニーが成立、'07年3月消滅したとする報道（角幡2007）があった。しかし、同年7月に例年よりずれて繁殖が始まっている。コロニーの規模は以前と比べ半分以下である。

●荒沢沼とは

大宮台地支谷の低地を南下する川が江川である。桶川市薬師堂近くには昔から川の一部の広がった沼があった。戦後、江川低地は河川圃場整備が進み消えた。減反政策により低地も休耕田が'70年代に増え、釣堀として造成されたのが荒沢沼である。営業中止中である。

●荒沢沼の植生

低地である荒沢沼周辺は、現在、湿性林へと遷移中で、沼周辺はハチクが、樹木としてコナラ、ミズキ、エノキ、ヤナギ類が生育し、他はヨシなどの湿性草原になっている。草本調査は（堀切1985）がある。

●コロニー成立からの個体数変動

ゴイサギの繁殖地に'90年からカワウが繁殖開始、'07年までの18年間コロニーとして続いている（表1、表2、図1）。

●コロニーの状況（図2）

営巣木はコナラ、ミズキ、エノキ、ヤナギ類、スギと当地の高木全てを利用。繁殖当初は最大の沼周囲の樹木へ営巣、その枯死により周辺域の樹木へと移動。当初、巣が見える事は皆無であったが、近年は周囲の道路、畑などから見通せる場所しか営巣できなくなり、現在は沼西部、薬師堂近くの林に営巣中。

●コロニー縮小の原因

一般に鳥のコロニーは繁殖期のみ使用され

る。個体数集中による汚染物質が非繁殖期に風雨により拡散し、翌年にはコロニーとして再使用可能となる。カワウは非繁殖期も鳩として使用するため、年々環境悪化が進む。

当地のコロニー縮小の原因は、環境面から

(i) 営巣木の枯死による減少。

(ii) 糞による沼の水質悪化（アオコ発生）。

当初、当地のカワウは荒川の魚を餌としていた。荒川の魚資源の枯渇（小荷田1994）により、魚資源が豊かな利根川に依存する様に変化した事が、埤入りの方向と数から推測できる。

(iii) 餌場がコロニー形成時より遠距離化。

(iv) 沼周辺の枯木の整理と搬出（'06年10月）。

枯木も強度があれば営巣可であるが、これが営巣環境悪化に追打ちをかけたと思われる。

●おわりに

愛知県知多半島の鶯の山では、コロニーは周期的に場所を移している。'07年7月上旬現在、コロニーは縮小し継続中だが、コロニーの寿命が近づいているのも事実である。荒沢沼を始めとする埼玉県平野部のコロニーの寿命は15年～20年であろう。

〈文献〉

堀切史郎 1985 荒沢沼周辺の植物 上尾市文化財調査報告25 上尾市教育委員会

小荷田行男 1989 埼玉におけるカワウの動態 —1989年冬鳥分布調査— しらこばと No.61

埼玉県生態系保護協会 1990 カワウ ナチュラルアイ No.144

小荷田行男 2004 カワウ—埼玉県における被害状況— 日本野鳥の会埼玉県支部リーダー研修会資料

角幡唯介 2007 カワウが消えた繁殖地の1000羽 —桶川の荒沢沼付近— 朝日新聞2007年6月24日朝刊

* 関東カワウ広域協議会委員、埼玉県カワウ対策協議会委員

表1 荒沢沼カワウ年表

年・月	主な出来事
1985	県内でカワウの飛来を日常的に確認（小荷田1989）。
198-	カワウ塘を形成。ゴイサギ繁殖。
1990	カワウのコロニー確認（約30羽）。 （埼玉県生態系保護協会1990）
1994	県内カワウの飛来数が急増。
2006.10	荒沢沼周辺の枯木の整理と搬出。
2007.3	塘入り数0と100羽前後の日が交錯し不安定化。その後、コロニー放棄。
2007.4	生息数約200羽を確認（県水産試験所）。
2007.7	荒沢沼西部、薬師堂近くの林に営巢。

図2 荒沢沼の営巢状況

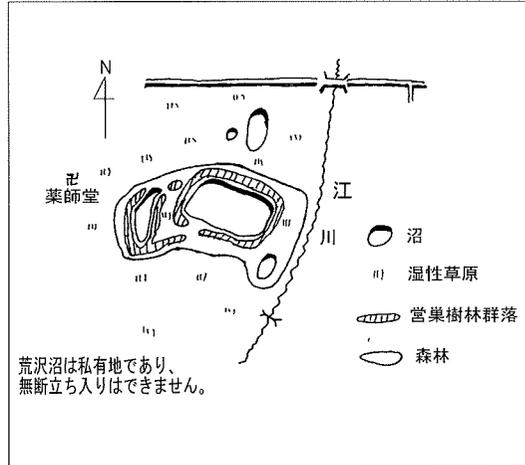


図1

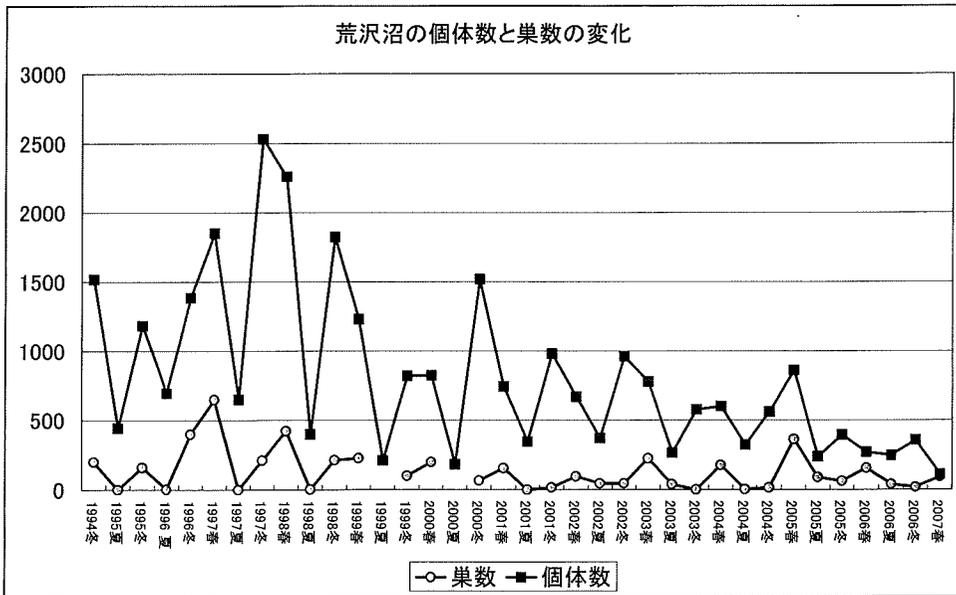


表2 荒沢沼の個体数と営巣数の変化（NPO法人バードリサーチ・日本野鳥の会自然保護室 提供）

	1994冬	1995夏	1995冬	1996夏	1996冬	1997春	1997夏	1997冬	1998春	1998夏	1998冬	1999春	1999夏	1999冬
巣数	200	0	160	3	400	648	0	211	423	3	213	228	211	100
個体数	1518	444	1183	694	1386	1852	647	2531	2260	400	1825	1231	211	821

	2000春	2000夏	2000冬	2001春	2001夏	2001冬	2002春	2002夏	2002冬	2003春	2003夏	2003冬
巣数	200	2	67	156	0	17	96	47	47	224	38	0
個体数	823	184	1518	742	347	982	668	372	961	777	266	577

	2004春	2004夏	2004冬	2005春	2005夏	2005冬	2006春	2006夏	2006冬
巣数	176	2	13	363	89	61	156	40	19
個体数	599	323	560	859	239	395	272	247	358

野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉県支部記録委員会

●亜種オーストラリアセイタカシギ

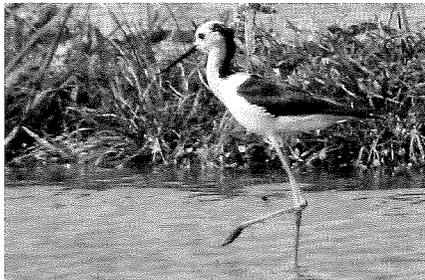
英名 Black-winged Stilt

学名 *Himantopus himantopus leucocephalus*

分類 チドリ目セイタカシギ科セイタカシギ

属セイタカシギ

2007年8月8日(水)川越市南古谷で藤掛宮子会員が撮影したセイタカシギ(下写真)が、



亜種オーストラリアセイタカシギであるかどうか検討しました。種としてのセイタカシギはすでに県内野鳥リストに収録されており、当委員会としては必ずしも検討しなければならないものではありませんが、参考として検討したものです。結果としては、「現時点では亜種オーストラリアセイタカシギであると同定することはできない」と判断しました。

種としてのセイタカシギは、ヨーロッパ・アフリカ・アジア・オーストラリア・南北アメリカなどに広く分布しています。日本鳥学会『日本鳥類目録改訂第6版2000』には、亜種セイタカシギ *H. h. himantopus* と本亜種の2亜種が収録されています。

日本では、亜種セイタカシギがかつては非常にまれな迷鳥でしたが、1961年頃から毎年観察されるようになり、今は千葉県谷津干潟などで毎年繁殖し、県内でも普通に観察されるようになってきました。

亜種オーストラリアセイタカシギは、オーストラリア・ニューギニア・ニュージーランドに生息していて、国内では1986年10月茨城県、1987年5、6月沖縄県、1994年5月北海道で記録されています。亜種セイタカシギより体がやや大きく、足がやや短い、後頭部から後頸部にかけて黒色部があり、その部分の羽毛が立つ、くちばしがわずかに上に反つ

て見える、などが識別点になっています。

一方、亜種セイタカシギの頭部黒色模様は個体変異が多く、文一総合出版『日本の鳥550水辺の鳥』のように、「亜種セイタカシギの中にも亜種オーストラリアセイタカシギとほぼ同じ頭部の模様をもつものもいるために注意を要する。」と記述しているものもあります。

本個体は換羽途中の若鳥です。頭頂部がより黒く換羽すれば亜種セイタカシギ、より白く換羽すれば亜種オーストラリアセイタカシギである可能性が高くなります。

8月12日に松村禎夫会員が撮影した同一個体の写真(右)によれば、頭頂部付近の薄い



黒斑は、濃くなっているように見えます。

様々な検討が必要な、興味深い事例でした。

●亜種シベリアツメナガセキレイ

英名 Yellow Wagtail

学名 *Motacilla flava plexa*

分類 スズメ目セキレイ科ハクセキレイ属ツメナガセキレイ

本誌2007年8月号『野鳥情報』欄7ページによれば、本年3月31日深谷市本田荒川右岸などにおいて本亜種を観察したとの報告がありました。写真はありません。

国内での撮影写真を掲載している図鑑もありますが、前記『日本鳥類目録改訂第6版2000』に収録されているのは、亜種マミジロツメナガセキレイ *M. f. simillima*、亜種ツメナガセキレイ *M. f. taivana*、亜種キタツメナガセキレイ *M. f. macronyx* の3亜種で、本亜種は収録されていません。

本亜種は、亜種マミジロツメナガセキレイの変異種とする説もあります。亜種ツメナガセキレイは、前には亜種キマユツメナガセキレイと呼ばれていました。

種としてのツメナガセキレイは県内で数回観察記録があり、県内野鳥リストにはすでに収録されています。

秋の危険な生物2種にご注意ください

海老原美夫(さいたま市)

ツツガムシ

ダニが媒介して発症するツツガムシ病には、古典型と新型があります。古典型は山形県・秋田県・新潟県などで春から夏にかけて発症、死の風土病として恐れられました。第二次大戦後、古典型はほとんどなくなり、媒介するツツガムシの種類が違う新型にかわりました。

新型は北海道を除く全国で発生し、秋から初冬がピークです。5～12日の潜伏期の後、39℃以上の高熱と全身発疹が出て、毎年数人の死亡例が報告されています。

- 1, 長袖・長ズボン着用で肌の露出を減らし、露出部には、ダニ忌避剤を塗る。
- 2, 脱いだ衣類・タオルなどを、地面や草の上に直接置かない。
- 3, 直接草の上に座ったり寝転んだりしない。鳥の観察や撮影のため、藪の中で長い時間を過ごさない。
- 4, 帰宅後は入浴して全身を洗い流し、衣類はすぐに洗濯する。

などのご注意をお願いします。入浴は、吸着しているかもしれないダニを洗い流すことが目的ですから、石鹸でもシャンプーでも、効果は同じです。

媒介する種類のツツガムシでも、菌を持っているのは0.1～3%にすぎません。しかも、6時間以上吸着していないと、菌は人に移行しないとされています。ですから、吸着されれば必ず発症するわけではありませんが、万一可能性のある発熱などの症状があった時には、ツツガムシ病かもしれないということを、直ちに医師に伝えてください。

[余談]手紙の常套句「つつがなく・・」が、「ツツガムシに刺されず・・」の意味だと言われているのは、誤りだそうです。もともと病氣や災難と言う意味の「恙(つつが)」という言葉があり、常套句は、それが無いという意味で使われていました。「恙」は「憂」と同じとも言われます。一方で「恙虫」とか「獣恙」とか、人に害する妖怪伝説のようなものもありましたが、いずれにしても、ずっと後の時代に、特定の病気の感染媒介者であるダニが発見されて「ツツガムシ」と命名されたのとは、別次元の話です。

スズメバチ

日本には3属16種が生息、9月から10月にかけて、集団の個体数が最大になります。刺されると激痛があり、過去に刺されたことがある場合は、アナフィラキシーショックを起こすことがあり、大変危険です。また、刺すだけではなく、毒液を空中から散布することもあります。散布された毒液は攻撃フェロモンの働きをして仲間を集め集団で襲って来ます。毒液が目に入ると、角膜の潰瘍から失明することもあります。

巣から10m以内に人などが近づくと警戒行動を始め、接近者の周囲を飛び回ります。さらに近づくと「カチカチ」という警戒音を出して威嚇します。オオスズメバチ(体長25～45mm)やキイロスズメバチ(体長20～30mm)は、威嚇なしで攻撃することもあります。

スズメバチが飛んでいるのを見つけたら、警戒行動なのか、ただ採餌などのために飛んでいるのか、冷静に観察する必要があります。警戒行動の場合、手で追い払ったりせず、動作を小さくしてできるだけ早く、警戒行動のなかった方向に離れましょう。

人の香水は、スズメバチ類の攻撃フェロモンと同じ物質が含まれていることが多く、秋のフィールドでは禁物です。黒い服や帽子は、スズメバチの攻撃性を活発化させるので、避けましょう。蜂蜜を常用している人が刺されやすいという説もあります。飲料缶を一時置いた間にスズメバチが潜り込み、口などを刺されることもあります。

万一刺された時は、流水ですすぎ、傷口をつまんだり、吸引器で毒液を出します。口で吸い出すことは厳禁です。タンニンを含む番茶などが有効。「アンモニアが効く」というのは迷信でまったく効果はなく、つけない方がいいとのこと。冷やしながら、できるだけ早く病院に行くことが肝心です。

(インターネットのフリー百科事典 Wikipediaなどを参考にしました。)



野鳥情報

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇5月7日、センダイムシクイとヒタキ類の声、どちらも姿見えず。アカハラ約10羽が林内を飛ぶ。

5月12日、キビタキが間近で鳴いているのに見つけられず。ツツドリが飛んできて「ポポッ」と鳴きだした。コムドリ 5羽程。センダイムシクイ、アカハラなど。5月14日、腹部の黄色が薄めの未成熟なキビタキ♂1羽。他にもキビタキ2羽、村国池でカワセミ♀（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区掛 5月7日、ムナグロ約30羽、キアシシギ8羽。5月10日、ムナグロ約20羽、キアシシギ2羽（鈴木紀雄）。◇5月12日、ムナグロ82羽、タカブシギ4羽、コチドリ2羽、チュウサギ1羽。5月13日、ムナグロ49羽、キアシシギ1羽（本多己秀）。

さいたま市岩槻区長宮 ◇ムナグロ、5月8日16羽。5月14日23羽（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区高曽根 ◇5月8日、ムナグロ約35羽。5月21日、キアシシギ5羽、チュウシャクシギ18羽（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区新方須賀 ◇5月8日、アシ原に囲まれた水田にゴイサギ25羽が集合、若鳥4羽、成鳥21羽（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区野孫 ◇5月8日、数百メートル離れてケリ2羽。5月11日、チュウシャクシギ3羽、キアシシギ2羽、ムナグロ46羽。5月14日、ケリ2羽、チュウシャクシギ2羽、ムナグロ60羽。5月28日、ケリ成鳥2羽に幼鳥少なくとも2羽を確認。



ムナグロ（寺添捨男）

繁殖に成功の様様。5月30日、ケリの幼鳥3羽を確認。成鳥より小さく幼い顔つきだが、ちゃんと飛べる（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区平林寺 ◇5月8日、ムナグロ103羽、キアシシギ6羽。5月16日、ムナグロ70羽（本多己秀）。◇5月10日、ムナグロ20羽+（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区末田 ◇5月14日、ムナグロ50羽、キアシシギ1羽（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区大戸 ◇6月11日、コサギ15羽、チュウサギ1羽、アオサギ1羽。アシ原から「オーオー」とヨシゴイの声（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区丸ヶ崎 ◇5月9日、ムナグロ50羽、キジ♂1羽、オオヨシキリ（本多己秀）。◇5月9日、ムナグロ約30羽、チュウシャクシギ1羽。5月16日、ムナグロ30羽+（鈴木紀雄）。◇5月12日、ムナグロ45羽、チュウサギ4羽、コサギ6羽。5月14日、ムナグロ地上に44羽、上空10mに30羽。イソシギ2羽、並んで飛んでいた。コサギ、ダイサギにアマサギ1羽が混じっていた。セッカ、オオヨシキリ、ヒバリが合唱（本多己秀）。

さいたま市見沼区宮ヶ谷塔 ◇5月12日、ムナグロ14羽、キアシシギ4羽（本多己秀）。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇5月13日、A区で40羽ほどのムナグロの群れ中にトウネン、キアシシギ、ソリハシシギ各1羽（榎本秀和）。◇5月16日、A区でムナグロ15羽、キアシシギ1羽、セイタカシギ2羽。Aside区でムナグロ約90羽、キアシシギ24羽（鈴木紀雄）。

さいたま市緑区中野田 ◇5月21日、埼玉スタジアムの遊水池でヒナ12羽を連れ歩くカルガモ（鈴木紀雄）。

蓮田市川島 ◇5月7日、ムナグロ38羽（鈴木紀雄）。

蓮田市笹山 ◇5月7日、ムナグロ約30羽。5月10日、約20羽（鈴木紀雄）。◇5月9日、ムナグロ72羽、アマサギ2羽、チュウサギ2羽。5月13日、ムナグロ75羽（4群の合計）、キアシシギ1羽（本多己秀）。

蓮田市黒浜 ◇5月8日午前7時頃、ムナグロ23羽、旋回して田んぼに着地。キアシシギ1羽、チュウサギ1羽。5月12日、キアシシギ4羽、カイツブリ2羽(本多己秀)。

蓮田市蓮田 ◇5月12日午前3時30分、屋敷林でアオバズク鳴く(本多己秀)。

春日部市谷原新田 ◇5月8日、ムナグロ35羽(鈴木紀雄)。

春日部市立野 ◇5月10日、ムナグロ10羽、チュウシャクシギ2羽(鈴木紀雄)。

宮代町山崎 ◇5月10日、ムナグロ15羽、キアシシギ1羽(鈴木紀雄)。

富士見市東大久保 ◇5月16日、ムナグロ40羽十、キアシシギ7羽(鈴木紀雄)。

志木市宗岡 ◇5月16日、タシギ3羽、水田で採餌(鈴木紀雄)。

桶川市上日出谷 ◇5月24日午前10時15分、カッコウ初認。畑で「カッコウ、カッコウ」とさえずる、昨年は5月12日に同じ所で聞いているが今年は例年どおりでしょうか(立岩恒久)。

上尾市東町3丁目 ◇5月27日、ふと上空を見上げると小型の猛禽2羽が追いかけてきたり、からんだりしていた。ツミのようだった(鈴木紀雄)。

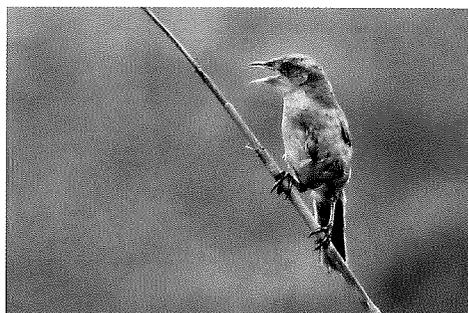
越谷市中島 ◇5月31日、中川と新方川の合流地点にサギのコロニーがあり観察。全体で数百羽と思われる。チュウサギが多く、他にダイサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギが繁殖しているようだ。ダイサギの巣とヒナが丸見えだった(鈴木紀雄)。

越谷市西新井 ◇5月31日、県民健康福祉村でメス親を追いかけて餌をねだるモズの幼鳥、3羽ほどいるようだった。池でコアジサシ1羽、カワセミ1羽(鈴木紀雄)。

深谷市上野台 ◇5月16日、工場敷地内でコチドリが繁殖。ヒナが1羽チョコチョコ走り回っていた。ちよーカワイ〜!(新井巖)。

JR深谷駅付近 ◇6月6日午後6時45分頃、川に注ぐ排水口にゴイサギが居ました。頭の羽の先が白で背中中央の羽の色が濃い青でした(毛馬内正幸)。

神川げんきプラザ ◇5月20日、ホトトギス、当地での初確認。5月24日、アオバト、当



オオセッカ 8月5日千葉県(宇田川暉雄)

地での初確認。5月に活発な行動を見せたのは、キジ、コジュケイでした。そして、一番元気の良いのは、やはりガビチョウでした(堀口芳嗣)。

吉見町八丁湖 ◇5月26日午後2時すぎからしばしの時間、ホトトギスの初音を聞く。姿は見えぬ(榎本秀和)。

飯能市奥武蔵グリーンライン ◇5月28日午前9時40分頃、林道端にミゾゴイを見つけた。直前で車を止めて見ているとミゾゴイもジッとしていてくれた。双眼鏡もスコープもカメラも用意しておらず、まずは図鑑を見て確認し、さらに観察をしようとした時、対向車が来て崖上に飛ばされてしまった。以前見たミゾゴイよりも色が薄いように感じた。思いもかけない出会いに感謝感激(藤澤洋子、小林ますみ)。

川越市新河岸川 ◇6月2日、対岸でヨシゴイ1羽を観察、昨年も何度か見ている。6月6日、川岸でササゴイ1羽を観察、ここでは難しいと思っていた(中間一郎・清美)。

渡良瀬遊水地 ◇6月6日、水上の浮きでコアジサシ40羽十の群れ中にアジサシ1羽。その他、コヨシキリ、オオヨシキリ、セツカ、ホオジロ、ウグイス、カッコウ、ホトトギス、チュウサギ、アオサギ、ササゴイ、トビ、バン、カルガモ、ヒドリガモなど(鈴木紀雄)。

表紙の写真

チドリ目シギ科タシギ属タシギ

秋に渡って来て冬を越し春まで、主役とは言えないけれども、渋い大切な脇役です。

蟹瀬武男(さいたま市)



行事案内



カワセミ(大澤 祐)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章した担当者に遠慮なく声をかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月7日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR 高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス 8:31 発で「自然観察公園前」下車。

担当：浅見、岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、長谷川、小林(正)

見どころ：暑かった夏も過ぎ去って、空が高く感じられる季節になりました。石戸宿は、森にも空にもタカが似合います。昨年 10 月はオオタカ、ノスリ、サシバとそろって登場、おまけにアマツバメの高速飛翔も。渡り途中のノビタキも期待です。

ルリビタキ♀（久保田忠資）

初めは♂のブルーに惹かれ、やがて♀の魅力に開眼す。狭山市にて。



さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：10月7日（日）

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅西口バス 1 番乗り場から、浦和美園駅行き 8:31 発で「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、工藤、倉林、若林、新井(勇)、赤堀、須崎、藤田(敏)

見どころ：南へ渡る鳥たちは、さわやかな野辺で一息。冬鳥もそろそろ姿を見せます。渡りの季節を楽しみましょう。

さいたま市・大久保農耕地探鳥会

期日：10月8日（祝・月）

集合：午前8時、JR 浦和駅西口バスロータリー。集合後路線バスで現地（やつしまニュータウン）へ。

担当：福井、楠見、小林(み)、海老原、倉林

見どころ：シロハラクイナがとり持つ縁で農家と野鳥の会の交流ができ、田植えや稲刈りも体験しちゃった大久保農耕地。多くの方々のご協力のおかげで、夏の間、元気に親子連れの様子を見せていました。探鳥会で会えるかどうかは、皆さんの運次第。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月14日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:49発に乗車。

担当：大澤、和田、森本、中里、倉崎、高橋（ふ）、後藤、藤田（裕）、栗原、飛田、新井（巖）、千島、鶴飼

見どころ：冬鳥の飛来の季節がやってきました。ツグミやジョウビタキとの再会を期待しましょう。上空には猛禽類が、河原にはショウドウツバメの乱舞が見られるかも。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月20日（土）午後3時～4時ころ。

会場：支部事務局108号室

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：10月20日（土）～10月21日（日）

定員に達したので締め切りました。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：10月21日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口。集合後路線バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺（周）、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎

見どころ：見沼田んぼには秋の風が吹いています。芝川も工事が終わった場所に干潟ができ、土手に緑がもどってきました。命が蘇ってくるのが楽しみです。小さな秋の旅、見沼田んぼの鳥見にどうぞ。

川越市・西川越探鳥会

期日：10月21日（日）

集合：午前9時10分、JR川越線西川越駅前。

交通：JR川越線大宮8:36→川越8:53着。

8:57発八王子行きに乗り継ぎ乗車。

担当：佐久間、長谷部、山本（真）、中村（祐）、山田（義）、山口

見どころ：深み行く秋の探鳥会シーズンです。例年どおりのカワセミ、サギの仲間、それにタカ類、モズなど。渡って来た冬の鳥たちも見られるでしょうか。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月28日（日）

集合：午前9時30分、県立さきたま史跡の博物館前レストハウス。

交通：JR高崎線吹上駅北口から、朝日バス行田車庫（佐間経由）行き8:50発で、「産業道路」下車、徒歩約15分。

担当：内藤、岡安、和田、大坂、立岩、栗原、高橋（ふ）、長谷川

見どころ：「ジョウビタキ見ましたか・・・」。この時期ならではの鳥の話題ですね。古墳の池にはカモの第一陣。高い空に秋風と朱く色づいた柿。さきたまは秋の魅力がいっぱい。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月28日（日）

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前または午前8時30分、中央エントランス駐車場

交通：東武日光線新越谷7:20→春日部7:35→栗橋7:54→柳生8:05着。またはJR宇都宮線大宮7:07→栗橋7:41着で東武日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡駐車場。

担当：内田、橋口、植平、玉井、田邊、四分一、中里、鬼塚

見どころ：毎年の干し上げで、いささか嫌われぎみの谷中湖、でも今年もやって来ますカモ科の仲間たち。それに気の早い冬の小鳥たち。遊水地の広く高い空をゆっくりと見ながら、この時期ならではの鳥たちを見つけよう。



行事報告

3月18日(日) さいたま市 三室地区

参加：58名 天気：晴

カワウ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ バン コチドリ イソシギ タシギ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 春の三室は百花繚乱である。いつもこころが浮き浮きしてくる。風は強かったが天気は良く、セグロカモメが悠々と飛んで行く。北宿大橋と大道橋のあいだの四つの橋を廻る探鳥会になり、7種類のカモを芝川で楽しんだ。(楠見邦博)

3月21日(水、休) 長瀨町 宝登山

参加：28名 天気：晴

アオサギ ノスリ キジ コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カヤクグリ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ウソ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 穏やかな日になった。参加者からカヤクグリを見たいとの声。これは是非見せたいとスタート。山道までのコースを少し変えて行くと……なんとカヤクグリが姿を。全員が注目。カヤクグリは動じることなく食事中。じっくり見られた。気をよくしていると、またまた別のポイントでカヤクグリが。今度は「カヤクグリか〜」の声まで。宝登山の中腹からは上越・日光方面の雪山がはつきり見られ、山頂近くの桜の木でウソを見た人もいた。何と言っても山頂からの眺め、梅林の花は最高!

(井上幹男)

3月21日(水、休) 松伏町 松伏記念公園

参加：26名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ

ギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ チョウゲンボウ バン オオバン イソシギ タシギ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) ぼかぼか陽気にゆらゆら陽炎の立つお彼岸の中日。公園を半周してから農耕地に出て、中川の土手道、公園の残りを回った。1羽だけ取り残されたようなオナガガモの雌に同情し、頭の黒くなり始めたオオジュリンをじっくり観察し、上空のチョウゲンボウの勇姿に感嘆した。先頭しか見られなかったカワセミや、姿を見せないシラコバトを恨んだりしたが、それでもヒバリの囀りに癒されたのんびり探鳥会だった。(田邊八州雄)

3月24日(土) 栃木県日光市 東照宮裏山

参加者：45名 天候：曇

マガモ コガモ トビ ノスリ クマタカ キジバト コゲラ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ カヤクグリ ジョウビタキ キクイタダキ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ ホオジロ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) スタート直後の大谷川でカワガラス、ミソサザイを見ているとクマタカが頭上を飛び、寺院と住宅の地域では多くのカラ類とキクイタダキの黄色い頭を見て感激した。開山堂より上の山はミソサザイの声ばかりだったが、昼食時に山の稜線にクマタカが飛翔した。稲荷沢沿いのコースの最後でカヤクグリと真っ赤なベニマシコで締めくくって終了した。(玉井正晴)

3月25日(日) 狭山市 入間川

雨のため中止。

3月25日(日) 行田市 さきたま古墳公園

雨のため中止。

3月31日(土) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加：51名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒド

リガモ オナガガモ ハシビロガモ ミサゴ トビ ノスリ チュウヒ コチドリ クサシギ イソシギ セグロカモメ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヒガラ シジュウカラ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス (43種) 谷中湖に水が6割ほど入り、少しカモ類が戻ってきた。しかし何か物足りない。旅立ち前の雰囲気が感じられない。後半は史跡ゾーンの散策路を探鳥。アシ焼き後2週間を経て、黒い台地に緑が芽生え始め、やって来たツバメ、ウグイスやシジュウカラ、ヒバリの囀りと春を思わせる一方で、冬鳥のツグミ、タヒバリ、ジョウビタキ、頭の黒くなったオオジュリン等も元気。珍しくヒガラを観察した人も。ミヤマガラスもじっくり見られ、43種。のどかなひと時だった。(内田孝男)

4月1日(日) 北本市 石戸宿

参加:65名 天気:晴

カルガモ コガモ オオタカ ハイタカ コジュケイ キジ クイナ バン キジバト カワセミ コゲラ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 桜満開のお花見探鳥会。この時期としては鳥も沢山出た。探鳥会開始前に、先遣隊からアリスイがいるとの情報が入り、探したが、残念、探鳥会では確認できなかった(何日前まではキレンジャクもいたのだが)。東光寺の蒲桜が見頃だったので、いつもとコースを変えて公園の南側に足を伸ばした。桜のほかにシロバナタンポポやカタクリの群落も観察できて、汗ばむほどの陽気の中、春満喫の1日だった。(浅見 徹)

4月1日(日) さいたま市 民家園周辺

参加:53名 天気:晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ オオタカ チョウゲンボウ キジ バン コチドリ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ

ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 初夏の陽気で桜も一気に満開。民家の庭先で色とりどりの花に囲まれ、まさしくお花見探鳥会。今冬の象徴といえるウソ、ヤマガラも観察できて冬鳥のシーズンを楽しく締めくくることができたと思う。(手塚正義)

4月8日(日) 熊谷市 大森生

参加:55名 天気:晴

カイツブリ カワウ カルガモ トビ オオタカ ノスリ コジュケイ キジ イカルチドリ クサシギ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ ウソ シメ ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 満開の桜の下、SL走行を見送りながら「野鳥の森」へと歩を進める。ホオジロ、カワラヒワ等のさえずりが多く、春をより感じる。トビ、オオタカが飛翔。荒川の河原ではノスリが樹上で羽を休め、水辺ではクサシギ、イカルチドリの姿が見られた。ツバメ、イワツバメの姿も確認できたが、まだまだ冬鳥の姿もツグミ、ベニマシコ、ジョウビタキ、カシラダカ等多く確認できた。(後藤康夫)

4月15日(日) さいたま市 三室地区

参加:87名 天気:晴

カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ キジ コチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 下見で見られたカモは出現せず、もう渡って行ったのか。斜面林ではカケスが多数群れ、ツグミもまだ桜並木の梢で鳴いている。コチドリやツバメも芝川の上を飛んでいた。春から初夏に向うあわただしい時季に葉桜が綺麗な見沼であった。(楠見邦博)



コガラ (松村禎夫)



●本部事務局が移転します

経費の削減と、今まで日野市 WING を拠点としていた自然保護室も一緒になることを目的に、本部事務局を 10 月初旬に移転することになりました。

新事務局は、〒141-0031、東京都品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号、丸和ビルの 3 階と 4 階、JR 五反田駅または目黒駅から徒歩 10~12 分、東急目黒線不動前駅から徒歩 5 分の位置です。

●鳥獣保護区新設に対する意見書

県みどり自然課から、深谷市と寄居町にまたがる荒川河川敷 38.0ha に「かわせみ河原鳥獣保護区」を新設する案に意見を求められ、8 月 19 日の支部役員会で検討した結果、8 月 20 日、賛成する意見書を郵送しました。

●探鳥会規定の変更

4. 参加者と参加費の(2)

「参加者は、会員と中学生以下の会員でない人は 50 円、高校生以上の会員でない人は 100 円の参加費を納めてください。」を、

「参加費は、就学前の子は無料、会員および小中学生 50 円、一般参加者は 100 円とします。」と変更しました。

●普及活動

6 月 10 日(日)、さいたま市立浦和博物館と三室公民館共催の親子探鳥会が見沼田んぼ周辺で開催され、楠見邦博・倉林宗太郎・新部泰治・赤堀尚義が指導しました。

7 月 11 日(水)、川越市川鶴公民館主催 19 年度かわつるセミナー探鳥会が開催され、藤掛保司・大坂幸男・藤澤洋子が指導しました。

7 月 16 日(月)入間市の FM ラジオ、FM チャッピーのスタジオで収録された石光章の話「夏のバードウォッチングの楽しみ方」が、午後 3 時から 15 分間放送されました。

7 月 27 日から 8 月 18 日まで開催された志木市商工会「第 2 回カップふれあい展」において、持丸順彰・山口芳邦が、柳瀬川探鳥会の資料や野鳥写真の展示をしました。

●事務局の予定

10 月 6 日(土) 編集部・普及部・研究部会議

10 月 13 日(土) 11 月号校正(午後 4 時から)。

10 月 20 日(土) 袋づめの会 (午後 3 時から)。

10 月 21 日(日) 役員会 (午後 4 時から)。

●会員数は

9 月 1 日現在 2,265 人です。

活動報告

8 月 11 日(土) 9 月号校正 (海老原美夫・大坂幸男・志村佐治・藤掛保司・山田義郎)。

8 月 19 日(日) 役員会(司会:石川敏男、関東ブロック各支部で協力してシラコバト調査をすることの提案・探鳥会規定の変更・その他)。

8 月 22 日(水)「支部報だけの会員」に向けて 9 月号を発送 (倉林宗太郎)。

編集後記

20 年以上観察している越谷のアオバズクの巣立ちが、今年は記録的に遅かった。例年より 1 ヶ月以上遅れての 8 月 16 日。これだけ遅いと、越冬地へ渡る時期までに、充分な体力をつけることができるだろうか。(山部)

しらこぼと 2007 年 10 月号 (第 282 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1 階

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生コート紙使用。印刷 関東図書株式会社